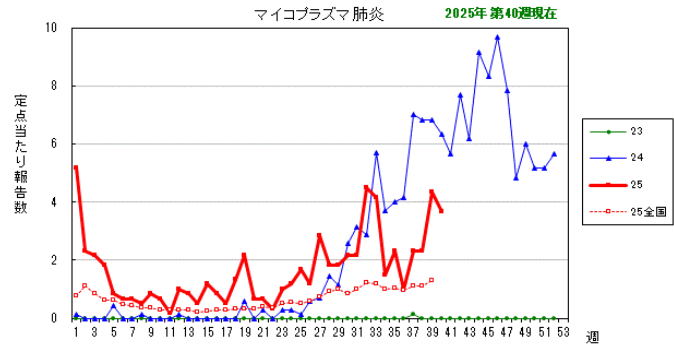
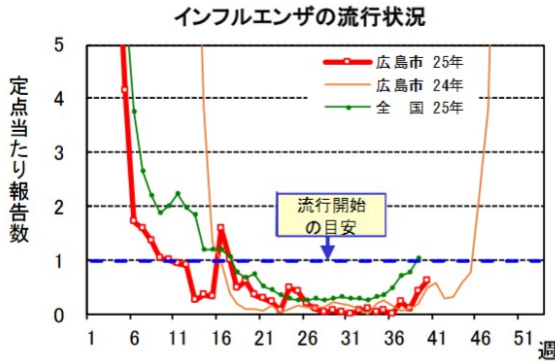


2025年第40週（9月29日～10月5日）

1 インフルエンザ

定点当たり0.60人と、増加傾向です。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖が第40週に2件報告されました。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。全国では、第39週に定点当たり1.04人と、昨シーズンより5週間早く流行開始の目安（定点当たり1.00人）を上回り、流行入りしました。

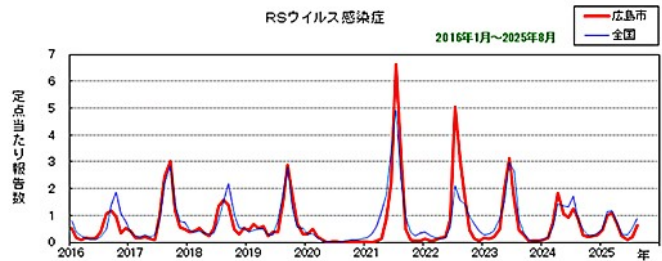
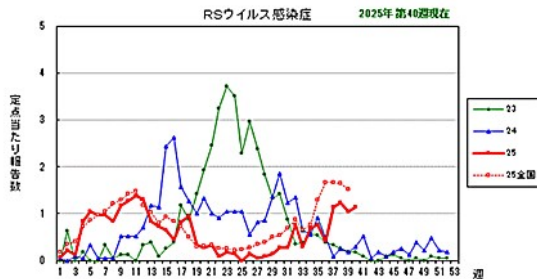


2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり3.67人の報告がありました。再度、上昇傾向となり全国平均を上回っています。要注意です、

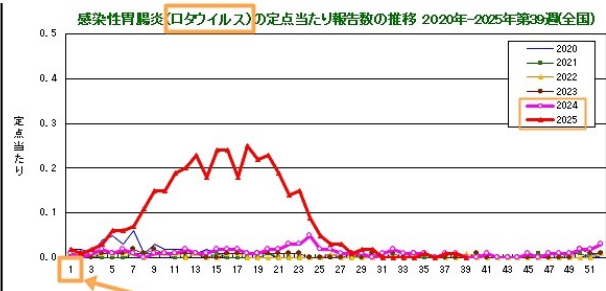
3 RSウイルス感染症

定点当たり1.14人の報告があり、多い状況が続いています。RSウイルスはかつて秋から冬に流行のピークがありましたが、近年は春から初夏にかけて増加し、夏にピークを迎えることもあります。生後6か月以下の乳児、特に生後1か月未満では、重症化しやすく注意が必要です。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒や手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。



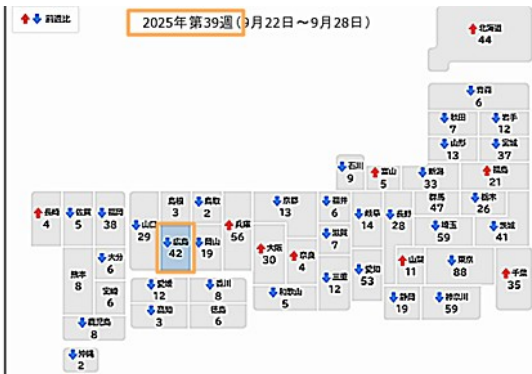
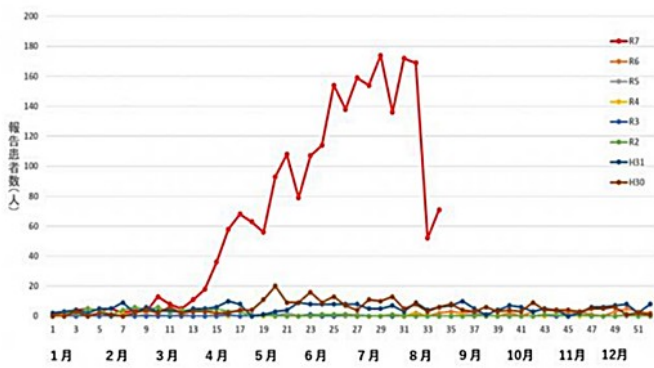
4 感染性胃腸炎

定点当たり4.64人の報告がありました。年間を通じて報告がありますが、秋から増加して冬にピークとなる傾向があり、注意が必要です。また、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生の報告が1件ありました。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。



5 百日咳

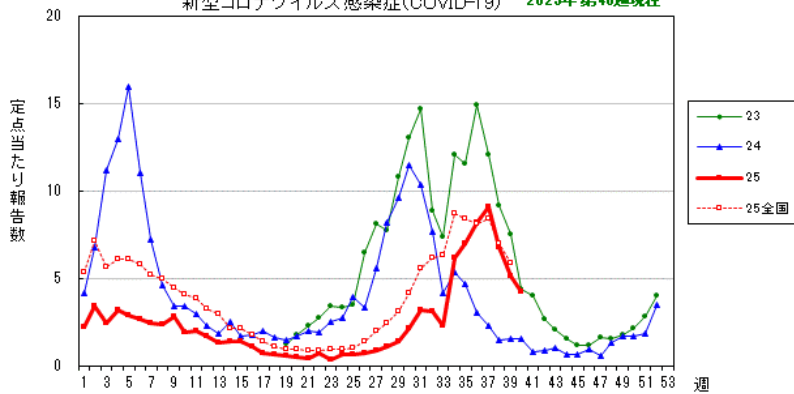
感染者数の多い状態が長期間続いていましたが、ようやく減少傾向となりました。



6. 新型コロナウイルス感染症

年齢階層別報告数

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 2025年第40週現在



新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 2025年第40週

